

## 瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



# プロ野球と高校野球

SOLANにはPTA組織のようなものはありませんが、現在、有志で集まってくださった方々の保護者の方の力を借りつつ、学校づくりや学校運営を進めていっているところです。

その第一回となる会【発起人会】が、この土曜日に開催されました。

その中で、1年生の保護者の方々ともいろいろなお話をさせていただきましたが、あるお父さんが次のように私に話してくださいました。

「学年通信、いつもしっかり読ませてもらっています。あの通信を読んだから、わたし自身が本をよく読むようになりました。子どもに読書を進めるのなら、まずは自分自身が本を読まないとなあと思えたんです。ありがとうございます。」

この話を聞いて、私は胸が熱くなりました。

通信を読むだけでなく、こうして素敵な感想をもらえたばかりか、すでにご自身の中で咀嚼して活用し実際に動いてくださっていたなんて…

という思いに駆られたからです。

どんな発信媒体であってもそうですが、それを受けている方々の感想やフィードバックにはものすごい力があります。

それこそ、マラソンの際の「力水」のようにして、一気に息を吹き返したり、奮い立ったりすることも少なくありません。

そのお父さんのひと声は、私にとってのまさに力水となりました。

少しでも、価値ある発信ができるようにこれからも精進していきたいと思えます。

さて、その発起人会の集まりの中で、「甲子園」の話題が出た一幕がありました。

私は、野球にはそれほど詳しくありませんし、特に特定の球団のファンというわけでもありません。

でも、高校野球は大好きです。

そういう方は、私以外にも結構多いんじゃないかと思っています。

ではなぜ、高校野球になぜあれほど熱烈な人気があるのでしょうか。

パワーもスピードもテクニックも、プロの方が上なのは間違いありません。豪快なバッティングも華麗な守備も目を見張る走塁も、高校生はプロに及ばないでしょう。

しかし、高校野球は今も昔も絶大な人気を誇ります。

熱烈なファンが大勢いて、もはや日本の夏の風物詩とすらなっています。

なぜ、彼らのプレーは大観衆を惹きつけてやまないのか。

それはきっと、彼らが「ひたむき」だからです。

本気で、一所懸命にプレーしているからです。

力の限り打って、走って、守って、涙するそのひたむきな姿に、人は心を打たれるのでしょう。

人間がもっとも美しく見える時。

それは、ひたむきに、一所懸命に、何かに打ち込んでいる時なのだと思います。

と、ここまでの文章を読む人が読めば、「あ！あの人の言葉だ！」ということにはすぐにばれてしまうでしょう。

先の話には、ちゃんと出展があります。

その本の著者は、有名なプロ野球の監督です。

野球への取り組み方を勘違いしている若手選手に向け、目を覚まさせるためにした話が、この高校野球の話だと言われています。

人が感動するのは、見てくれの良さや小手先のテクニックではない。

力の限り挑戦すること。

ひたむきに取り組むこと。

最後まであきらめないこと。

内なる強さ、無形の力を磨くことこそが人間にとって大切なのである。

そう語った野球の監督。

それは、故野村克也氏です。

2年前の訃報を知った時、私はしばらく絶句しました。

監督の本には、ほとんど漏れなく目を通しました。

スポーツ界の著名人の中で、唯一中身を見ずに「作者買い」をする人物でもあります。

一般的には、理論的で戦略的で頑固でぼやきグセがあって…というようなイメージの人が多いかと思います。

しかし、私は野村監督ほど人間的で愛に溢れる野球人を他に知りません。他球団で見放された選手が再び力を発揮して輝き始める。

ピークを過ぎ引退もささやかれていた選手がホームラン王になる。

自己中心的な考え方だった選手がチームのために献身的に戦うようになる。

こうした話が幾つも残っているのは、野村監督が人間というものの本質を見極め、そして何より選手や野球を心の底から愛していたからだと思っています。

私は、各界においてとびっきりの憧れと尊敬を覚えている人物がいます。

経済界なら、京セラの稲盛和夫。

哲学者なら、フランスのアラン。

心理学なら、アルフレッド・アドラー。

国際支援なら、池間哲郎。

科学者なら、村上和雄。

教育者なら、大村はま。

他にも上げればきりがありますが、スポーツ界では間違いなく私にとっての一番の憧れは野村監督です。

せっかくなので監督の著作からいくつか私の好きな言葉を紹介してみます。

- 「中心なき組織は機能しない。だからこそ中心選手は技術的に優れているだけでなく、人格や日頃の行いにおいても他の選手の模範とならなければいけない。」
- 「人間は何のために生まれてくる？」
- 「伸び悩んでいる選手には一つの共通点がある。それは自己限定をしていること」
- 「無形の力は磨けば磨くほど研ぎ澄まされる」
- 「一年目は土を耕し、二年目に種を蒔く。花を咲かせるのは三年目」
- 「人間は無視、賞賛、批難の段階で試される」
- 「見るべきものは失敗に至った結果ではなく過程」

発起人会で甲子園の話題が出たので、ついつい野球繋がりから大好きな野村監督の話が浮かんできました。

現在の投稿企画は「小学生時代のおすすめ本」ですが、いずれ中学生編や

高校生編を経て、大人編でのおすすめ本紹介もしたいと思っています。

人間が最も美しく見える「ひたむき」な瞬間。

夏が終わった後の学校でも、そのような瞬間が生まれてくることを楽しみに、子どもたちと共に学んでいきたいと思っています。(渡辺道治)

(写真は、サマースクールの時の夏祭りの写真です。)



- ① 小学生時代のおススメ本…「読書は、宝の山への旅」そんな言葉があります。新しい考え方に出会い、新しい言葉を知り、時には冒険し、時には迷い、そして時に感涙する。価値ある本との出会いは、人生を豊かにしてくれます。そこで、みなさんが小学生時代に読んだおススメの本を教えてください。「お父さんやお母さんが子供のころに読んだおススメの本」という言葉の響きは、子どもたちの読書熱をさらに高めてくれることと思います。
- ② 小さい頃の夏休みの思い出…先日、あるクラスの学活で「夏休みの思い出を守れゲーム」というレクを行ったそうです。自分の夏休みの思い出を5枚の短冊に書き、先生がそれを当てに行くというゲームなのですが、その中で外国人の先生が「スイカ割りをした人？」を尋ねると、なんと1人も手が上がらなかったそうです。夏休みの代名詞のようなスイカ割り文化も、現代では少しずつ変わってきているのかもしれませんが。そこで、お家の方々の子どもの頃の思い出をいろんな角度から教えていただければと思います。古き良き時代の文化に子どもたちが興味を持つきっかけにもなりそうです。

↓↓↓ご参加、お待ちしております↓↓↓

[1学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)